

## 松戸市協働のまちづくり協議会 第6回 議事概要

《日 時》令和7年11月15日（土）13時00分～17時00分

《場 所》松戸市役所議会棟3階 特別委員会室

《委 員》犬塚 裕雅 会長、有川 かおり 委員、百田 清美 委員、山口 恵理子 委員、  
富田 文子 委員、星野 健一 委員、上野 真一 委員  
(欠席) 牧野 昌子 副会長、佐藤 純子 委員

《傍聴者》3名

### 1 開会

※委員定数確認、配布資料確認、傍聴許可確認

- ・協働事業提案制度/市民活動助成制度の申請事業に対する利害関係の有無を確認した。

### 2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

### 3 議題

#### (1) 令和8年度実施分協働事業・市民活動助成事業プレゼンテーション

①事業名 : みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観事業 (協働事業)

団体名 : エディブルウェイプロジェクトチーム

担当課 : みどりと花の課

委 員: 活動レポートブックについて、具体的な活用方法を教えてほしい。

団 体: 自分たちの活動をまとめたものを500部作成予定。緑と花のフェスティバルなどの市内イベントや地域包括支援センター等での活用を考えている。また、活動の問い合わせも多いので、問い合わせ対応としても活用予定。

委 員: 活動に参加したい団体等に対して、どのようなサポートをしているか。

団 体: 実際の事例では町会からの相談がある。町会を盛り上げるという意味で取り入れてみたいという問い合わせがあり、いきなり町会レベルで始めるのが難しいところがあるので、既存の活動に参加していただきながら、地域のコミュニティづくりをどのようにするかとか、情報交換しながら展開していくような形を取っている。

委 員: 事業の品質・価値をきちんと大切にしながら、活動が非常に広がりつつあるし、コミュニティマネジメントの目線ではまだ活動の伸びしろがあるかと考える。是非ともその価値を良い形で伸ばしていけるように、取り組んでいただければと思う。

②事業名 : 松戸が世界とつながる学びプロジェクト事業 (スタート助成)

団体名 : 特定非営利活動法人 なかよし学園プロジェクト

- 委員 : 松戸の学校で事業展開するにあたって、実現可能性をどう考えているか。
- 団体 : 他市を含めて、教員の先生などの間で、口コミでどんどん広がっているのが現状。直接、我々が急に打診するよりは、そのような人の紹介でさせていただけたらと考えている。
- 委員 : 先ほど不登校の生徒の話もあったが、どのように活動をしているか。不登校の子供を見つけるのはなかなか難しいと思うが。
- 団体 : フリースクール等から話を受けて、そのような子どもに出会っている。
- 委員 : 学校で海外とオンライン交流するときに、例えば並行して自宅にいる子どももアクセスできるように活動されている学校はあるか。
- 団体 : 学校の体育館で実施するが、やはり自宅で聞きたいと言われる方もいて、そういう時はできる限り動画を撮ったりしている。それを個別に見せて、こんなふうに喜びの声が上がっているというのをできるだけ伝えるようにしている。
- 委員 : この松戸市で足元がしっかりと固まってないというところが、少し不安である。仮に採択された後に、学校現場でちゃんと活動できるかどうか非常に気になる。南スーダン等海外とのオンライン交流は、相手方の海外の学校現場にとってはどういう意味を持つのか。日本で作ったかたとかその教材が海外の教育プログラムにかなうのかどうかを含めて、それをすごく心配している。
- 団体 : 松戸市の先生も今、繋がりがあるのでそこからやっていこうと思っている。海外の地域によっては、教育がそもそもまだまだのところなので、現地の子供たちにとっては、教育を受ける前段階の見放されているという感じがあるというところに、日本の子供たちがこんな思いでつくったというのを届けるのは、見捨てられていないと感じてくれるところはかなりある。そういう意味では、別にこちらだけがやっているわけではなく、お互いが本当に学び合いで、学びたい意欲はすごくあるのにできないっていうのを見て、日本の子供たちも学ぶし、どちらもが本当に双方向のつき合いを作るようにしている。

③事業名 : ときわだいらレコードセンター事業 (ステップアップ助成)

団体名 : 特定非営利活動法人 ディープデモクラシー・センター

- 委員 : 今回レコードセンターという名前が出ているが、内容的にはアーキビストという人材を育成するという理解でよいか。

- 団体：コミュニティが参加してコミュニティが保有するってところがコミュニティアーカイブの要点だと思っている。まちで暮らす人たちが自分たちの記録を自分たちで作っていく。そのあり方自体とても重要だと思っている。常盤平地域で何かを記録した人たちが違う地域で何かを記録するか、そういった可能性も含めて、まずは人材育成というふうに考えた。
- 委員：その関連で、アーキビストは国の公文書館含めてある程度資格として、専門的な資格としての位置付けになっているが、今回皆さんがねらっているのは、そういう専門的な資格というよりも、地域の土地の記憶を紡いで伝えていくことを担ってくれる人たちを育成させたいという、そちらの目的の理解でよいか。
- 団体：中心となる地域の人たちが自分たちの生活史を記録するということに重きを置いているので、講座の中ではまちの見方とかを中心に行っているが、大事な資料を預かるので、アーキビストの手法を学ぶというのも入れている。
- 委員：講演に参加する方 100 名を目標にしているということだが、年代的、世代的にはどんな方々を想定しているか。
- 団体：対象が二分化していると思う。高齢者で、近くでやっているのに行きたいという地域の方はもちろん対象だと思っている。一方で、こういう取り組みをずっと期待して、遠くからエネルギーをかけて来る方。やはり将来的には、地域の方たちが、まず自分の記録を見直したりしつつ、地域の生活を見直していくような仕組みになるといいなと思っている。
- 委員：アーキビストというのは、一般的にどのぐらいの方が認識している言葉かと思う。二分化している対象、高齢者等を想定していたり、遠くの方を呼びたいということであれば、言葉だけで引きつける、何かそういう工夫があると良いなと思った。アーカイブセンターでアーキビストになれると言われても、見過ごす方がいるかと思う。
- 団体：その通りだと思う。よく「カタカナばかりですね。」と言われる。講座の中で、ある講師はまち歩きの第一人者で、命名なども凄くキャッチーにする方なので、我々に欠けている視点はそこで学べるようになると思っている。
- 委員：記録をデジタル化しておくことは、想定されているか。
- 団体：基本的にはすべてデジタル化する予定。権利関係とか、顔出しているものとかも含めて整理しようと思っている。我々も学びながら取り組みしたいと思っている。

④事業名 : 松戸・子どもの音楽体験事業 (スタート助成)

団体名 : Chloris Music (クロリス・ミュージック)

委員 : 0～1 歳というのは、じっとしてられない特性を持った子も多いと思うので、そういった子も対象だといいなと思ったが、対象としているか。

団体 : 子どもは反応がリアルにそのまま返ってくるので、私たちも止めることができないし、親御さんたちもできない。音楽に対して反応は自由にしていし、何をしてもいいと案内している。

委員 : 生の演奏を聞くということが、ハードルというのが、ハードルが高いと思う。そういった方々にも届いて欲しいという気持ちを私自身も持っているが、音楽にあまり興味がないとか、生の演奏に対するハードルが高いと思っている方々にどう届けるか。

団体 : どのようにアプローチしたら来ていただけるかというのは常に悩んでいるところ。まず子供向けであるということを前面に出すことで、大丈夫かなとハードルが下がるというのがある。また、音楽に興味のない方にどう参加いただくか、お母さん方の口コミや、またはInstagramで広報できればいいなと思っている。まだ模索中である。

委員 : 今後の展望として、保育園での活動というのが入っているが、保護者の意図とは関係なく子どもに届くので、ぜひそういったところはやっていただきたいと思う。

団体 : まさに目指しているところはそこ。体験格差を一番効率よく埋めることができるのは、そういった所にお伺いすることだと思う。

委員 : 事業計画書には、クラシック音楽の垣根を越えられない公演が多いという問題意識を記述されているが、今回提案しているプログラムは、クラシック音楽の領域を超えたものという理解でよろしいか？

団体 : クラシック音楽を半分ぐらい入れて、あとは子供たちが勝手に体が動くような楽しいものを入れたり、手遊びをしたりということもする。クラシックと明確にとどまらないと言っている。

委員 : この1回の公演時間はどのぐらいか？

団体 : 1回の公演は40分。30分を超えたあたりから子供たちの落ち着きがなくなってくる。45分はちょっと長いので、40分としている。

委員 : 参加料が1000円から2000円とちょっとハードルがあるが、この辺りどうされるのか。

団体 : 会場によって、差をつけたほうがいいかなとは思っている。森のホールを会場とする時や演奏者が増えたときには、料金をアップさせていただくようなイメージでいる。

⑤事業名：矢切地区における子どもの遊び場創設事業（スタート助成）

団体名：あそびパーク やきりの

- 委員：プレーパークの開催でプレーワーカーを招待することはあるか。
- 団体：団体メンバー2人がプレーワーカーの研修を受けている。知り合いで活動されている方がいるので、アイデアをもらったりしたいと思っている。
- 委員：市内にプレーワーカーの方がいらっしゃるの、そういった方と連携して、なおかつ子供たちをそこにつなげて、子供たちも将来プレーワーカーになってもらうというのもありかと思った。子供が大きくなってくると活動を見てくれるようになってくると思う。
- 委員：2回目の応募になると思うが、予算概要について保険料が計上されていなくて、前回審査時もそんな話が少しあった。そこはどの様に対応されているか？
- 団体：『松戸市市民活動総合補償制度』があるということは認識している。プレーパーク特有の「怪我と弁当は自分持ち」というところもあるので、4月から活動し始めているが、様子を見ている感じになる。他のプレーパークの方に相談しているが保険加入状況は様々であり、今回も計上はしていない。
- 委員：海外のプレーパークで、例えばロンドンで流行っていたが、それが今、下火になってしまっている理由というのが、訴訟が発生したからということがある。そういうことも可能性として存在していると思う。すごくいい活動で素晴らしいと思うが、そういったところのリスク回避というのは大事だと思う。
- 委員：とてもいい活動をしていたが、そういうところでつまづいてしまった事例もある。団体のためにも、地域の中でこの活動が理解されていくためにも、必要かなと思う。
- 委員：農業体験について、クオリティを保ちながら生きているものを育てていくことは大変だろうと思うが、頑張っていたきたい。団体には農業について知っている方がいるか。
- 団体：実家が農家で畑がある方がいる。農法のノウハウを勉強しながら、いい意味であまり手間をかけずに楽しく実施できればと思う。

⑥事業名：松戸の歴史的文化遺産の復元・活用研究事業（スタート助成）

団体名：松戸の地理・歴史探訪調査会

- 委員：地域の歴史調査は、やはり住んでいる方にしかできないことと思い、大切だなと思う。事業目的で、地域の環境教育に活かすとのことだが、具体的な取り組みは何かあるか。大学とかそういったところと連携するという方

法も1つあると思う。歴史の公開講座とかをしていると地域の方に聞いたことがあり、そういったことの展望があるのかも教えて欲しい。

団体：中学校のPTA会長をしたことがあり、その時、先生方に『鮮魚街道』とか『子と清水』のことを聞いても、先生方はあまり知らなかった。地元で文化財資源がこれだけあるのに理解していない方が多いなと思い、調査をはじめた。歴史的なことを調べるのは非常に時間がかかる。時間をかけて、大学とか研究施設とかの連携はやらなければいけないと思う。成果を出しながら、学校や大学、博物館など発表したりするということはやりたいと考えている。また、現地を見て理解していくということで、そういった案内的な活動もしたいと思っている。

委員：このままいくと郷土史研究の同好会の話になってしまう心配がある。市民活動としての取り組みをどう担保していくか。事業計画書では、市民を集めて勉強会や報告会、地域住民参加による案内などが少し入ってはいるが、これらの取り組みを広げていくことによって、地域の人たちを巻き込んだ市民活動に成長する可能性があるのではないか。取り組みの軸足がそこに入っているかどうか、改めて確認したい。

団体：地域の方にも、案内できるようなことをやっていこうと思う。そのためにはまだ資料がきちっと揃っていないので、この事業で勉強或いは調査した段階で案内していこうと考えている。

⑦事業名：文学を通じて生きがいと豊かな心を育む事業（スタート助成）

団体名：朗読と文学の会

委員：今後の展望のところで持続可能な雰囲気にしたいていうところがあった。今後も活動を持続的にやるうえで、例えば、引き継いでいただけそうな方はいるのか。

団体：実は高齢化というところで悩んでいる。SNSやホームページを活用して活動を広めていきたいというふうに思っている。また、各参加者は活動した内容を、3分間にまとめて、皆の前でスピーチしてもらっており、それを楽しみに来ていただいている。スピーチは努力しないとできないので、このような形で、生き甲斐を作っていただいている。

委員：自分たちがこれまでの取り組みを見える化していくために、本にしていこう。これはよくわかるが、それを、高齢者の方たちに配布することによって、どうしてそれが高齢者の生き甲斐の維持、活性化に繋がるのか。流れを教えて欲しい。

団体：例会を125回開催している。毎月1回。毎月1回の参加者を募るのに非常に苦労している。それにはやはりわかっただけの媒体がないと皆さ

ん、なかなか参加してくれない。口コミもあるが団体の冊子を今まで作った事がない。冊子を作り配布し、参加につなげたい。

委員：書籍は、団体活動の宣伝パンフレットみたいなイメージでよいか。

団体：はい。

⑧事業名：超高齢化社会に向けての支援活動事業（スタート助成）

団体名：料親会

委員：今必要とされるテーマの活動のように思う。ビジネスケアラや軽度認知障害など色々な課題があるが、そういう方たちは隠れているというか、なかなか見つけづらいのではと思う。そういった方たちと繋がるネットワークはお持ちなのか。

団体：市内 15 か所に地域包括支援センターがある。現在、3ヶ所とやり取りしているが、そこを広げていきたい。また、ポスターや広報まつど、SNS による周知もやっていきたい。

委員：私も地域でお年寄りの方に参加してくださいという声掛けをしているが、なかなか難しいところで、特に男性の方がなかなか出てきてくれない。今まで団体が活動してきた中で、男性だからこそ結構来てくれるとか、何かノウハウみたいものがあれば教えてほしい。

団体：やはりその辺が難しいと思っている。実際に今までこういうことを専門にやっていたわけではないので、これからやっていこうということ。その辺をご理解いただきたい。各包括支援センターでは、団体の方を含めていろいろやっている。その横の繋がりも活用させていただきながら進めていきたい。

委員：毎回の参加者の人数だが、事業計画では 5 人程度となっている。この 5 人程度の人数に団体メンバーが加わるということか。

団体：はい。

⑨事業名：Matsudo Tech Lab 先端科学技術振興・啓発事業（スタート助成）

団体名：松戸ロボット研究会

委員：密度が濃い計画になっているなど感じており、継続するのが大変ではないかと少し心配している。団体としてはどうか。

団体：3つのことを1つのイベントで行い、また年に2回と回数を抑えている。展示については連携する団体に協力してもらい、また千葉県ボランティアナビも活用しながらうまくやっていきたいと考えている。

委員：イベントでの 3D プリンターとかレーザーカッターなどは、借りてくるのか。団体に保有しているのか。

- 団 体：当団体の活動内容でロボットの制作や開発がある。実際 3D プリンターや、レーザーカッターなど色々な機械を持っている。調整などは必要だがそれを持っていきやっている。大きな材料となると加工ができないので、データを送ってもらい団体の事務所で作成し、あとは郵送で送るということにしたいと思っている。
- 委 員：ワークショップについて、内容をもう少し教えてもらいたい。図画工作のワークショップをやるのか、或いはロボットを制御していくためのプログラミングのワークショップなどやるのか。
- 団 体：各人得意な分野があり、機械を作るのが得意な人、回路やはんだ付けが得意な人などがある中で、小学校低学年、高学年、中学生とワークショップの内容を分けているが、動くものを作って自分で動かしたという感動を持って帰って欲しいという思いがある。それぞれ内容としては分ける予定でいるが、動くものというのがコンセプトと考えている。
- 委 員：小中学生へのアプローチはやはりチラシか何か？
- 団 体：まつど市民活動サポートセンターに相談しているが、小中学生が直接見る場所に置くとか直接見えるような所にチラシを配るなどできればと考えているのと、あとは SNS を活用して保護者に届くような、アプローチもしたいと考えている。

⑩事業名：2050 年ゼロカーボンシティまつどへの機運醸成事業（協働事業）

団体名：一般社団法人 銀座環境会議

担当課：環境政策課 ゼロカーボンシティ推進担当室

- 委 員：給水スポット・マイ容器スポットに参加する側のメリットと、あと提供する側で何か気をつけなければいけないことは何か。また、学校との連携は考えているのかどうかを教えてほしい。
- 団 体：マイ容器の参加メリットは、テイクアウトでのお弁当箱やプラスチック容器等のコストが削減できるという面がある。一方で給水スポットの方についてはそういった意味でのメリットはない。この事業を進める中で、様々な広報発信をしていく予定であり、例えば何々カフェが給水スポットになってくれましたというものを、SNS 等で発信していく。まちづくりへの貢献という形で発信する。提供側で気を付けることは、日本の水道水は問題ないので、提供できる部分で提供していただくということ。ただ、マイ容器に関しては、弁当等は家から持ってきてタッパーには入れられないものもあるので、メニューの中で対応できるものと、できないもの。例えばカルビ丼とか、親子丼などはやりやすいが、それをちょっと区別していただき、店内にポスター掲示をしていただく。学校は連携できればしたい



が、誰でも無料で水道水を提供するというのが要件になるので、例えば、誰でも入れるキャンパスオープンですよという大学があればぜひ連携していきたい。

委員：成果目標で給水パック閲覧数と SNS 発信 50 回あって、団体メンバーが発信するということがあったが、松戸のアカウントを作るのか。それとも、それぞれのメンバーのアカウント方での発信か。

団体：松戸のアカウントを作り、日々の活動を発信していく。団体メンバー個人でつながりのあるお店などに関しては、メンバーのアカウントでも発信していきたいと思うが、この発信 50 回の目標は松戸のアカウントでの回数。

委員：発信回数もそうだが、フォロー数や閲覧数の目標も設定した方がいいのではないかいうのと、松戸市関連のアカウントもあるので、リポストしてくれたりもする。積極的にそういったアカウントと連携していただければと思った。

委員：利用する側はどういう方を想定しているのか。

団体：どなたでもいいが、想像としては、環境問題に関心が向き始める年齢、一般論としては中年層ぐらいと思うが、色々考えるようになった人達と SNS ネイティブと言われる、高校生、大学生、のようところがボリュームゾーンになるというイメージを持っている。

委員：助けて欲しい、お水をいただきたいという SOS を上手に発信できない、要は敷居が高くて、いけないという方もいるのではと思う。熱中症対策でクーリングスポットを実施している場所もあるので、この活動はそれに準じて良いと思った。

団体：おっしゃる通り、クーリングスポットという形で市内にあるので、そういう所の連携は考えている。もしも、「お水ください」と言ってお店に行くところとは遠慮してしまい、いけなかったとしても、この活動を知ることによって、マイボトルを持つようになるというだけでもすごく効果があるというふうに考えている。

⑪事業名：介護予防運動指導者養成事業（ステップアップ助成）

団体名：クロダマハウス

委員：予算のその他経費の項目で、ステップアップ指導員の講習会費用と登録認定料というのが 2 名で計上されている。これは目標のメインコーチとサブコーチの 2 名ということで、この 2 名のための費用ということか。

団体：はい。

委員：今現在、介護予防運動指導者というのは何人いるのか？

団体：団体で 4 人。矢切と北柏に教室があるが、2 人ずつ。メインとサブ合計 4

人いる。

委員：レコード等の音楽とか興味を引くものがあるので、研修参加とか告知するときに画像とかホームページをアピールされたら良いのではと思った。

(2) その他

- ・第4次松戸市協働推進計画 中間見直し（案）について、書面開催での内容確認による委員意見を踏まえた提言書（案）が示され、了承された。

6 閉会